

事業者と実演家がタッグ 「福祉財団」が発足、労働環境の整備へ



文化芸術および芸能関係の実演家やスタッフの福祉向上に、業界全体で取り組む互助プラットフォームとして、一般財団法人「日本実演芸術

財団設立の記者会見に参加した春風亭昇太さん(前列左から2人目)ら
財団設立の記者会見に参加した春風亭昇太さん(前列左から2人目)ら
当にありがたいこと」と話した。



山下副理事長(左)と天野理事長(右)

「RISE-A」設立
記者会見を開くとともに、会員募集を開始し

三井不動産、半導体産業支援コミュニティ 「RISE-A」設立 理事長に名大・天野浩教授

三井不動産(株)は、半導体産業支援コミュニティである一般社団法人「RISE-A」(ライズ・エー)を設立し、7月16日に設立記者会見を開くとともに、会員募集を開始し

た。理事長には名古屋大学の天野浩教授、副理事長には三井不動産の山下和則常務執行役員が就任した。さらに運営諮問委員会(予定)には、理化学研究所の五神真理理事長、科学技術振興機構の橋本和仁理事長、北海道大学の寶金清博総長らが就任する。

RISE-Aのコンセプトは、共創や協調のプラットフォームで、そのための場と機会を提供する。場の提供として、今年10月に東京・日本橋で「RISE GATE NISHONBASHI」を開設予定で、会員企業は各スペースを無料または特別価格で使用可能。また、機会の提供として、▽会員が企画するイベント・情報発信のサポート▽RISE-A企画のイベント・情報発信——を実施するとしている。

半導体による産業イノベーションを推進するエコシステムを構築し、日本の次世代産業競争力の強化につなげることを目指す。記者会見で、天野理事長は半導体産業について「生産・消費が既に形作られており、新しいものを生み出しにくい。新産業を創出するには、異分野の方々が集まり議論することが必要で、RISE-Aは、その場所を提供できると考えている」と語った。

福祉財団」が7月22日に発足した。

フリーランスの場合が多い俳優やミュージシャンなどの実演家・スタッフからは、不特定かつ多様な依頼者からの依頼を受け、または自らが主宰して、不定期・断続的な仕事を行っており、現行労働法が想定する就労形態と大きく異なっている。一般勤労者と比べ、社会保険、労働保険制度上の保護が不十分であり、実演家らが安心して安全に創造活動を継続していくための「社会保障基盤の構築」は喫緊の課題だった。

日本芸能実演家団体協議会や日本演劇興行協会、緊急事態舞台芸術ネットワーク、日本舞台技術スタッフ団体連合会など計14団体によって立ち上げられた同財団は、事業者・興行主(発注者側)と実演家・スタッフ(受注者側)がタッグを組み、総合的に実演芸術分野に携わる人たちの福祉に取り組み。まずは労災保険特別加入業務に着手し、次なる支援策の検討のほか、政策提言に向けた調査研究意識啓発や広報に努めるとしている。

23日に都内で財団設立の会見が行われ、財団の評議員で落語協会会長の春風亭昇太さんは「芸術に携わる我々は非常に弱い立場にある。それはコロナで実感した。財団設立は本